

みなさんは、なやみや心配事をふきとばし
てくれるっりがねがあると知ったら、どうし
ますか。わたしは、ほしいのでさがしに行き
ます。ロシアの皇帝もっりがねがほしかつた
ので、うばいに行きました。でも、っりがね
は手に入りませんでした。
イワシは自分の畑から出てきたっりがねを、
村びとたちと協力して村にかざり、みんなの
ものにしめました。その結果、美しい音色がな
りひびき、ゆたかな気持ちが生えました。
もし、みんながほしいとっりがねをうばい合
たら、村中でけんかが起こり、戦争が始ま
たがもしれません。そんな村に、美しい音色
はひびかないと思います。それどころか、っ
りがねはこわれてしまふと思ひます。
わたしは、この本を読んで、自分のことを
ふり返りました。妹は、わたしの色えんぴつ
よりも色の数が多い色えんぴつを持っています
。絵を書いたり、ぬり絵をする時に使いた
いので、妹に声をかけず勝手に使ってしまう

ことがあります。そうすると、それに気付い
 た妹がおこり、けんかになっ、てしまいます。
 本当は一言「かして」とお願いしてから使え
 ば良いのに、使いたい気持ちが大きいため、
 勝手に使っ、てしまうのです。皇帝もわたしと
 同じだと思えます。つりがねを自分のものに
 したい気持ちが大きくて、かずくでうばおう
 としました。本当はイワシに一言「いっ、しよ
 に」つりがねの音を聞かせてください」とお願
 いすれば、結果はちがっ、ていたのかもしま
 せん。わたしも皇帝も自分の気持ちをゆう先
 して、相手を思いやる気持ちが大、ちよ、と足
 りなか、たのだと感じました。
 わたしは、いやなことがあ、た時、友達に
 話します。友達は話を聞いてくれ、わたし
 もそう思っ、と、分かち合っ、てくれました。
 つりがねを想ぞうした時に、そんな友達のコ
 とバウがぶました。つりがねと入の心は、に
 ているのかもかもしれません。つりがねが、馬や
 牛、へいしをよび集めても動かせなかつ、たよ

うに、人の心も無理やりは動かせません。でも、つりがねが、かなづちでこなごなになっ
たように、人の心も時には強い悲しみなどで
くだかれます。しかし、つりがねがくだかれ
てもすずになっただように、人の心も強く生ま
れ変わる事ができると思っています。この本も、
たくさんの人に読んでほしいです。そうすれ
ばきと、相手を思いやる気持ちや、やさし
い心がふえるはずですよ。この世界はもと幸
せになります。

わたしも、つりがねのように人を支えたり、
助けたり、人のためになることがしたいです。
でも、いきなりできることではありません。
まずは、妹や周りの友達に、少しでもやさし
くできるようになりたいです。
わたしは、物語の最後にこう付け加えます。
「イワコは、最後に残ったすずを持って、皇帝
の住む城へ行き、門の前にそと置きまし
た。この国が今よりもっと幸せになると
信じて。」